

282

著者茶蘇

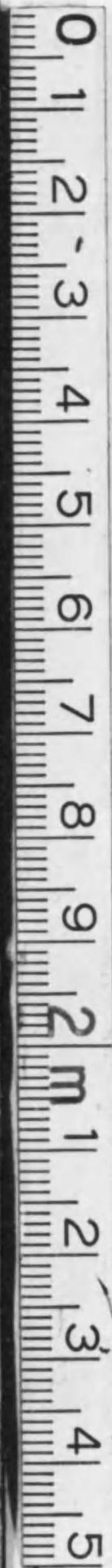
特 251

604

卷問神精在日



行發有力在日



始



日本力會

結成皇紀二千六百年紀元節

昭和十五年貳月拾壹日

本邦東京市神田區東神田三番地

綱領

健全ナル皇國發展ノ根本

要素ハ大日本精神ヲ確

保スニ宣揚ス以テ旨トス

誓約

皇國發展持テ力

皇民一體出ヅル力

八紘一宇成ル力

指標

我等ノ力ヲ國內淨化

我等ノ力ヲ國民道義化

方策

國內淨化運動、研究並ニ實踐

國民道義化運動、研究並ニ實踐

全國民、積極的啓蒙

總裁 今村 等

會長 吉田義憲

604
251
冊

皇 後 皇 后 會

新 報

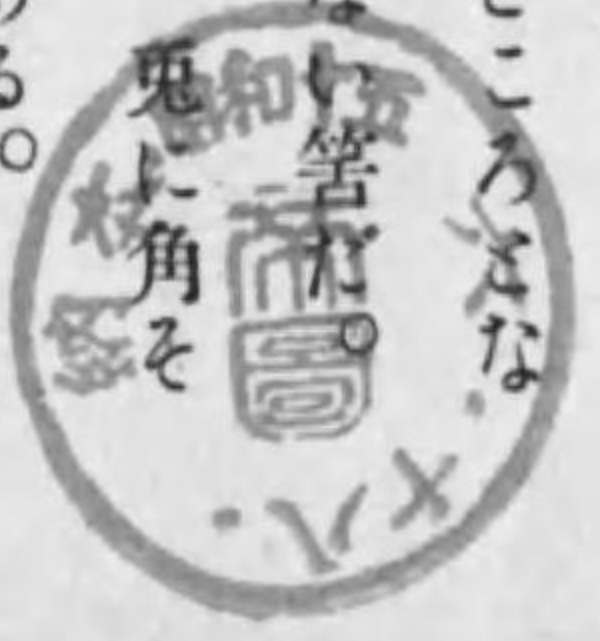
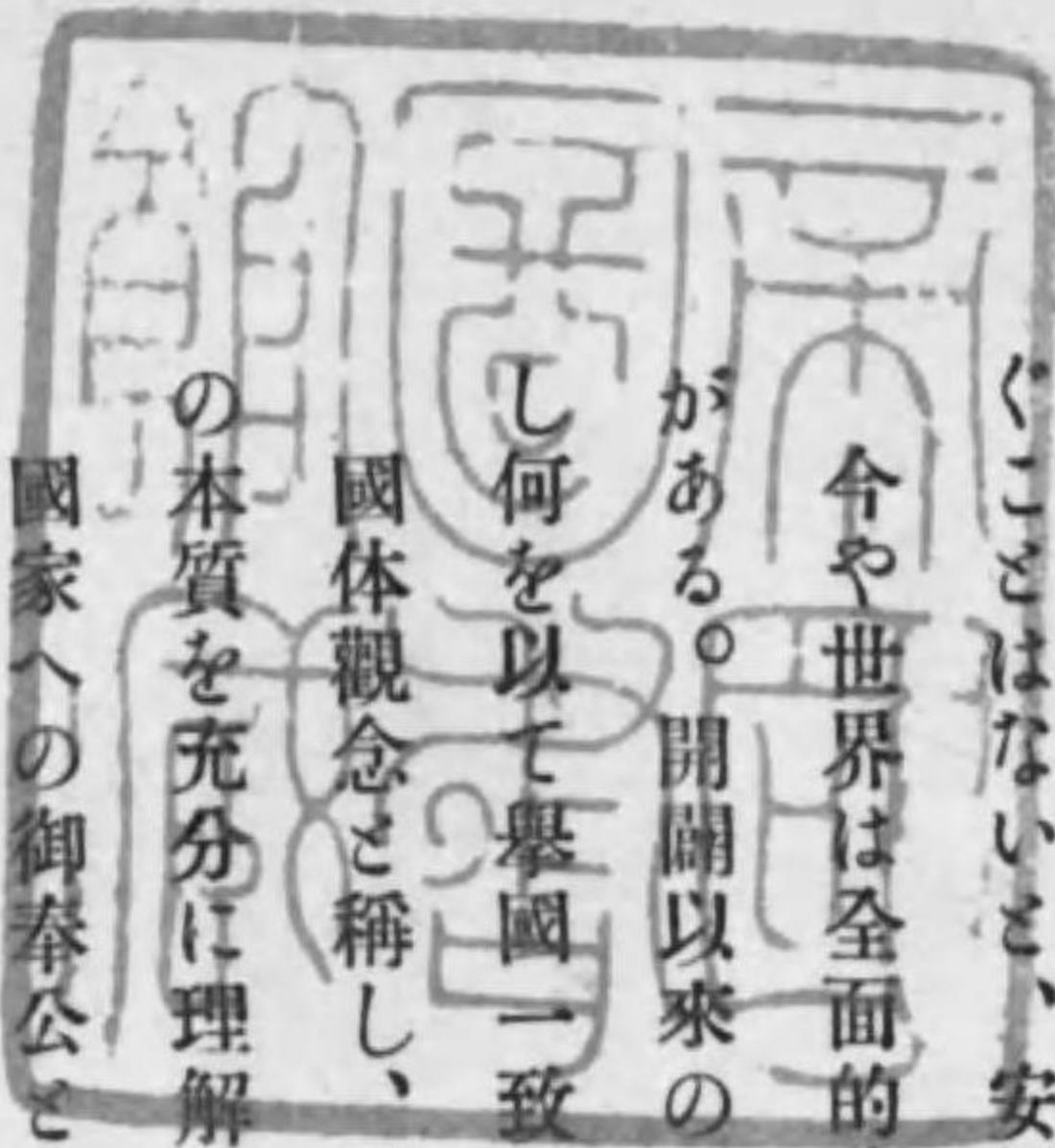
將大軍陸 林 銓 郎 閣 下 題 字

序

日本人である以上日本精神を有たぬ者はないから、そう日本精神々々々と騒ぐことはない、安價に片づけるほど危険なことはない。

今や世界は全面的建直しの時代に入つて、日本の立場は實に容易ならざるものがある。開闢以來の國難時といはれる此際、何を以て日本國民の據りどころとするか、何を以て舉國一致の大黒柱となすべきか？ それは日本精神以外にならぬ。國體觀念と稱し、國民精神といふも凡て日本精神の別名に過ぎぬが、鬼角その本質を充分に理解してこそ、その眞價を發揮することが出来るのである。

國家への御奉公と言ひ、或は國民生活の向上といふも、凡ては日本精神の發揮でなくてはならぬ、斯く考へる時、如何に日本精神の正しい理解が大切であるが分る。で、從來、日本精神に就いて澤山の書物が刊行され、また最近は毎日の如



くラヂオでその有難さが放送されるのであるが、さて、その實體を簡單明瞭に知りたいと思ふ人々の爲に、痒い所に手が届くやうな説明がなか／＼與へられない。そこに日本精神が、縁遠いものゝ如くに誤解される原因の一つがある。

日本精神の高揚發揮を本願とする、我が力會としては此の点を深く遺憾となし本會顧問近藤氏に平易なる解説を乞ふて、本冊子を發行するに至つた次第である。著者は過去三十年の經驗を有つ民衆運動の指導者であり、現在なほ日本主義運動の尖端に立つ實踐的理論家である。本書は必ずや讀者諸君の期待に沿ふところあると信ずる。

昭和十五年六月

日本力會會長 吉田義憲識

日本精神問答

近藤榮藏

「問」 近頃しきりに日本精神といふ言葉が流行るが、何故でしようか？

「答」 國亡びんとして忠臣出ずとか云ひますね。日本は今やどゑらい國難に見舞はれてゐる。そこで日本精神が飛び出して來て、國を救ふと云ふ譯なんでしょうねー早い話が。一體、人間といふやつは横着な動物で、恩に狎れやすい。例へば、空氣がなければ、五分間と人は命を保てない。空氣の御恩は實に偉大なるものだが、さて、その恩に充分浸つてゐる間は、人間はそれを忘れてゐる。空氣なんてものが在ることさへ全く念頭から消へ去つてゐる。ところが、少しく空氣が稀薄になるか或は汚れてもしたら、さあ大變だ。人は蒼くなつて騒ぎ出す。近頃日本精神が急に騒がれ出して

来たのは。ちようど斯うした始末ではないだらうか。閉めきられた室内で人の呼吸に新鮮な空氣が足りなくなると、人々は苦しがつて騒ぎ出す。いま日本は重大時局の下に大飛躍を遂げやうとしてゐるが、その飛躍に必要な精神力が不足だといふことに急に氣がついて、さあ大變だと騒ぎ出したところなのである。やれ國民精神總動員だとか、やれ産業報國運動だとかいふ掛聲は、すべて危急に際した國家が精神力の供給を頼む叫びなのである。此の要求は是非とも一刻も早く充たしてやらぬと、國家は呼吸がつまつて倒れるかも知れぬ！

ところで一言附加へておくが、政府も民間も近頃は二た言目には日本精神を云々する。それを云ふことそれ自體は悪くはないが、口に言ふだけでは一向にほんどうの精神力は生れない。私は九官鳥がそれを謳ふのを或る店先で聞いたことがある。大概の日本人は近頃實はその九官鳥におとらぬ無關心さで日本精神を口にしてゐるのではないかと心配する。

「問」問題はそこです。日本精神々々々々といふが、さて然らば日本精神とは何ぞやと尋ねると、雲を掴むやうな神がかりの話しか聴かせてくれない。そこで吾々學問のない一般人は、つい無關心になつてしまふ。ですから、その處を一つ凡夫にもはつきり吞込めるやうに話しをしてくださいませんか？

「答」私も正に凡夫の一人で、全く御同感だ。精神の話になると、話手はとかく鹿瓜らしく構へる。何かもつたい振らないと、精神が承知しないかの如くに考へることが、そも／＼間違ひの始まりだと思ふ。それは兎に角、私は精神などといふものも前にも言ふ通り、空氣の如く平凡なものだときめてゐる。むづかしく解釋するのは學者の勝手で、吾々凡夫は凡夫らしく簡單に考へたらよろしい。で、例へば空氣といふ目に見へないものを理解せんとする場合に、それを謂ゆる科學的に酸素がどうの窒素がどうのと、學問にうつたへて知る場合と、人間が有つて生れた感覺に直接訴へて知る場合とがある。そして空氣の本質を充分に知るためには、どうしても兩方の手段が

必要である。精神の研究においても、やはりそうだと私は思ふが、日本人が日本精神を識るには、先づ手取早く日本人として有つ直感に訴へて見たらよろしい。一例を舉げて見ませう――

日本には講談師といふ藝人がある。之はちよつと外國に見當らない職業だが、上手な講談を聴いてゐると、何度聴いた話でも私等は感激する。そつと涙を拭いたり、片唾を呑んだりする。忠臣孝子の物語――赤穂浪士の仇打話など幾度聴いても感激新たなるものがある。これは一体どうしたことか？ 普通の話は二度聴いたらいやになるが、義理人情の話になると、吾々は飽きない。清水の次郎長とか伴隨院長兵衛とか謂ゆるやぐささへが神様のやうに尊く輝く。それは、日本人の心に觸れ、ばすぐに心が鳴り出す或ものが在るに違ひない。之は知識のあるなしに關係なく、白痴か氣狂ひでない限り、日本人の誰もが有つところの普通の感情である。そして私は先づそこに日本精神の普通の姿を観るのである。忠孝と義理人情を喜ぶ精神――之が日本精神なのでしよう。

それで私は、日本精神を最も完全に教へ示されてゐるものは明治天皇さまが明治二十三年に下し賜はれた教育勅語であると思つてゐる。諸君は勿論暗誦されてゐるだろうが一應拜讀して見ませう――

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉已レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ徳器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通

シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其徳ヲ一
ニセンコトヲ庶幾フ

八

私は日本精神について事新たらしく小むづかしい解釋を加へる必要なしと思つてゐる。この勅語を拳々服膺さへすれば、そこに自然と日本精神が何んであるかが分つてくるし、その有難さが身に染みてくると思ふ。

「問」なるほど解りました。教育勅語もあなたの言はれる空氣と同じで、私共はその有難さを常には忘れてゐるのですね。いや、今後は毎朝謹んで拜讀して、大いに日本精神を起すことにしませう。ところで更にお尋ねしますが、日本人に日本精神があると同様に、支那人には支那精神があるでしようし、アメリカ人にはアメリカ精神があります。ドイツ人は何んでもドイツ魂を非常に誇りにしてゐるそうですが、一体日本精神と外國の精神とどう違ふのでしようか？ 日本精神が世界無比といはれる点

はどこに在るのですか？

「答」なか／＼急所を突込んできますね。さあ、そう尋ねられると、前にちよつと云ふた科學的説明に亘らねばならぬ、つまり理論的に話しなければならなくなると思ふが、それにしても、その問題は只今拜讀した教育勅語の上に完全に解決されてゐるのである。御勅語を今一度讀返して見ませう。例へば――

爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ

云々である。凡てこゝにいふ立派な行ひは日本精神の獨占物でないことは明かだ。支那にも昔から忠もある、孝もある。特に孝は孔子の教へ即ち儒教の心棒である。廿四孝などといふ孝子の列傳があるし、二君にまみへすと云つて餓死した忠臣の手本もある。西洋の歴史にも幾多の忠臣あり孝子がある。特に「夫婦相和シ」といふ点になると、之は西洋道德の中心で、西洋社會は一切が夫婦中心で動いてゐるやうなものだ。と云つた譯で、その他「朋友相信シ」にせよ、「博愛衆ニ及ホシ」にせよ、將また

九

「國憲ヲ重シ」にせよ、御勅語によつて示された一つ一つの道徳は必ずしも日本に限られた人の道ではなく、それらは「之を中外ニ施シテ悖ラス」と仰せらる通り外國にも共通な美德である。して見れば、外國に比して日本にそれらの徳が一層多く行はれるからとて、それを以て日本が萬邦無比だとは云はれぬ譯だ。それは單に程度の問題で「無比」ではない。然らば、教育勅語中のごを以て日本精神の世界獨特性を證據立ることが出来るのであらうか？

では、もう一度勅語を讀返して見ませう。

その中ほごに、「國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ」——とある次ぎに、「以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」とありますね。この「以テ」云々こそが御勅語中の最も肝腎要のところ、こゝに即ち日本精神の萬邦無比性が示されてあるのであります。短いこの一節には、罌粟粒に沙彌山を叩き込めると云つたお釋伽様の説法ではないが、實に意味深長なるものが在るのであります。なせでせうか？

支那や西洋では、忠は忠のための忠であり、孝は孝だけの孝です。だから儒教では孝悌とはいふが忠孝とはいはない。孝を忠と別々に扱つてゐる。日本では忠孝と云つて常に忠と孝とを一つにして楯の両面の如くに觀る。之は一例であるが、教育勅語を拜讀して行くと、「父母ニ孝ニ」以下いろいろ人として行ふべき道が多く示されてあるが、それが最後に「以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」で結ばれてゐる。ただ孝行をしるゝ夫婦仲好くしろ、學を修めろと仰せられてゐるのではなく、凡てそれらの徳を行ふことによつて「以テ」皇運を扶翼せよと仰せられてゐるのである。即ち日本にあつては、孝は孝なるが故に尊きにあらず、夫婦は相和するだけで善いのではなく、智能を啓發するのも、國憲を重んずるのも、凡ては「以テ」天壤無窮の皇運扶翼と行かなければ全きを得てゐないのであります。ここが外國と日本の相異するところで、従つて萬邦無比の日本精神は皇運扶翼となつて現はれてこそ始めて萬邦無比なのである。要するに外國では、種々の道徳行爲がてんでんばら／＼でよいのであるが、日本ではそ

れらが總括され一體となつて、皇運扶翼といふ謂はば最高の國家道德にまで發展すべきものとされるのである。こゝが最も重要な点です。

「問」なるほど、お蔭で日本精神の急所が解つて來ました。有難う存じます。ではその大切な皇運扶翼といふことを一つ分りよく説明して戴きたいものですな。

「答」皇運とは、申すまでもなく、天皇さまの御運即ち萬世一系の天皇の御位が天壤と共に極まりなく榮へ續く御運であります。それを臣民たるものが協力一致してお守りし且つ彌榮へ給ふやうお力添へするのが扶翼であります。と云へば至極簡單だが、恐らく諸君はこれだけの説明では満足すまい。そこで此点をすこし詳しくお話しよう。

問題はすべて國體に關係してくる。國體が一切の本をなす。日本精神は勿論日本國體の現はれである。既にいふ通り、日本では一切の道德行爲が皇運扶翼にまで上り詰めなければ本當でないといふのも、勿論、日本の國體が然らしめるところであります。此点を解り易くするには、人体に譬へて見るのがよいと思ふ。

外國では國體が個人主義の上に立つてゐる。個人が主で、國家は單に個人の寄り集りであり、主人公たる個人の利益のために出來た道具に過ぎぬと觀られてゐる。人体に譬へて言へば、人體を造つてゐる各細胞が大切なので、人體は單に幾千億細胞の寄り合ひ世帯であり、各細胞の共同利益のために出來上つてゐる活動人形に過ぎぬことになる。之が即ち個人主義社會觀で、それに依れば國家は國民個々の利益に役立つ限りにおいてのみ存在の意義があるのである。民主主義思想とは之です。

ところが日本の國體觀念は以上とは根本に異ふ。日本では國家が主で國民個々が主人公ではない。人體に見れば、人體といふ一つの全體が價值ある存在として取扱はれるのであつて、それを構成してゐる細胞個々に獨立の存在價值は認められないのである。手足とか耳とか眼とかいふはつきりした構造物さへも獨立的價值はないのである。その證據には、假りに腕を鋸で切り落して見たらよい。體全體から切り離された腕は正に死物で、腕たるの用を爲さないではないか。それは單なる肉と骨と皮の

塊^{かた}まりで既に腕^{うで}ではないのだ。ましてや個々の小さな細胞においておやである。此の道理を國家に當てはめたのが吾々日本人の國體觀でなければならぬ。國家そのもの、一部分としてのみ國民に生命の意義があるので、國家を離れては國民としての生存價値はないのである。

そこで、日本の國家と天皇様との御關係はごうであるかと云ふと、例の美濃部博士の天皇機關説で一時大變な騒ぎを起したことであるが、天皇を國家の支配機關だなどと観るのは全く西洋流の國家觀から生れた大間違で、天皇は國家の上に絶對で在らせられるのである。國土も國民も日本の一切は天皇さまのものだといふては誤解^{ごかい}する者もあらうが、實は手も足も頭も眼も鼻も一切を含めて之を人體といふと同じやうに、國民も國土も何もかも日本の一切が、天皇といふ御位によつて統治され、外に對しては代表されるのだと觀たらよいのである。そしてそれは單に現在の日本だけを云ふのでなく、開闢^{かいびやく}以來の日本の歴史、更には天地と共に將來無窮^{むきゆう}の皇運を含めての日本全

である。斯る全體觀に發するところの精神が日本精神であると私は信ずる。

話がちと哲學^{ていがく}の範圍^{はんい}に入つてむづかしくなつたが、この國體に關する問題は一番肝腎^{かんじん}なことであるから、是非はつきり理解してもらいたい。この点を抜きにしたら日本精神問答は全く盲^{めくら}の龍を描いたと同じことになつてしまふ。

「問」 いや、よく解りました。兵隊さんが戦線で斃^{たふ}れる時、天皇陛下萬歲^{ばんざい}を唱へるといふことも、お説の通り、單に勇敢^{ゆうかん}であるとか、或は御勅語にある「一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ」を満足に勤め上げたといふだけでなく、その最後の締^しめくゝりとして天壤無窮^{てんじやうむきゆう}の皇運を讀^たへ奉^たることを忘れないといふ譯なのです。日本精神の最もはつきりした現れなのです。

「答」 全くその通りです。再び人體に譬へて見れば、小さな白血球細胞^{はくけつきゅうさいぼう}が人體に浸入^{しん}する病菌^{びん}と戦つて自己を滅^{めつ}するが、然しその犠牲^{ぎせい}行爲によつて人體といふ大きな生命を保つと同じ意味において、兵隊さんたちは自己といふ小我は棄^すてるが、國家いふ

大我のうちに永遠の生命を保つのであります。君民一如の我國にあつては、天皇陛下に對する忠義は、外國で帝王に臣下が盡す忠義と決して同様に觀られてはならないのです。外國では、主従間の共通の利害關係或は愛着心に動かされて忠義が行はれるに過ぎない。日本の君臣關係に於いてはさうした個人的動機は問題とならないのである。再び人體を借りて言へば、個々の細胞と體全體との關係は人が母の胎内に宿つた瞬間に決定された法則に支配されるところのものであつて、謂ゆる先天的のものである。善いとか悪いとか、好きだとか嫌ひだとかいふ問題を全々超越してゐる。日本民族生成の根本原理もそれで、天皇と臣民との關係は肇國當初に決定されてゐるのである。それは人爲を以て後天的に如何ともすべからざるものである。君民一如といふ尊い言葉はこの原理に則つて考へられねばならぬものと思ふ。

教育勅語の結語は「朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ」と仰せられてある。天皇御自身が御勅語通りに御實行なさると御約束なされ、さうし

てその徳をお前たち臣民と一にしようではないかと仰せられるのである。國家道德の一體觀がこれほど判然と示されてある有難い文献は恐らく他にあるまい。全く國民一如である。日本が萬邦無比の國であるは實に明かで、従つて日本精神が世界に類がないことも亦明かだと思ふ。

「問」 有難うございます。日本精神の尊い本質がよく解りました。そこで、もう一つお尋ねしたいのです。吾々國民が此際その尊い日本精神を最もよく發揮する方法と申しますか、兎に角、お互ひが有つてゐる精神をどう働かせたら宜いででしょうか？

「答」 これも極めて適切な御質問ですね。實際日本人である以上、お互ひに誰もが皆日本精神を有つてゐるに違ひないのだが、大概の人は有つてゐるだけで、それを出して使ふうとしない。そこで國全體として精神力の欠乏を感ずる譯なのですから、國民各自が此際出し惜みしないで、大いに精神を總動員すべきなのです。精神は物と異つて、使つたから減るといふことは絶対にない、否、使ふことによつて益々増へる性質

のものだから、出惜みするほど馬鹿なことではない。にも拘らず、今のこの絶対必要の場合にさへ、ごうも思ふやうに日本精神が發揮されていなるやうですね。日本人にはケチ臭いといふ弱點がある。

實際に昨今の日本國內の様子を見てみると、日本精神とはおよそ類を異にする西洋精神—否、西洋でも恐らく余り讚められはすまいと思はれる精神が大いに發揮されてゐる例へば關取引などといふことが流行するが、大問屋筋がボロ儲けせん爲に商品を賣惜む、公定相場で買ひに来る者には品切れと斷はり、「闇」なら賣るといふユダヤ根性は斷じて日本人には在つてならぬ筈のものだ。同胞の一部分が生命を犠牲にして皇運を扶翼し奉つてゐる間に、その戦争をもつての幸ひにして成金にならうとする如きは、日本精神の立場においては、實に許しがたき大罪である。再び人體に譬へて見よう。或る男が白刃を振つて必死の眞劍勝負をしてゐる時に、彼の心の半分が甘い酒を飲んで女と騒いでゐる夢でも見てゐるとしたら、ごうであらう。彼の體の構へは必ずすきた

らけで、すぐに敵に斬り伏せられるにきまつてゐる。國家が未曾有の大國難に當面し、總力戦を敢行してゐる現在、國民の大きな一部分が成金の夢を見てゐる危険は正にこれに等しい。事實において、既に地方政權にまで追詰められた蔣介石政府が依然頑張り通してゐるのは、日本にかゝるすき、在りと觀て、やがて日本を斬り伏せうると信じてゐるからだ？

そこで私は思ふ—此際日本精神を眞に發揮する道は、西洋流の利己主義や個人本位の謂ゆる自由主義思想を、ちようご白血球が外來の病菌を喰ひ殺すやうに、日本精神を以て征服し、國內を思想的に大掃除して、國民の全部が皇運扶翼以外の何事をも考へないやうに精神的統一を齎すことである。その一つの手段として國民精神總動員運動が政府の手で行はれてゐるのだが、あんな遺方では手ぬるくて駄目だ。元來精神上の問題で國民が政府に御手數かけることそれ自體が間違である。精神の振興といふ如きことは自發的でなくてはならぬ性質のもので、お役人さんの命令などでほんとう

に行はれうるものではない。白血球が外來の病菌と闘ふのは、その都度腦の命令を受けてやるのではなく、白血球それ自體に具はる本能から全く自發的に行はれるところの行動である。銃後國民の思想戦もこのやうにならなければ本モノではないと思ふ。私どもは及ばすながら、さう云ふ意味で團體を設けて思想的に活動してゐる譯です。

私は、このお話のなかに余り政治問題を持ち込みたくないと思つてゐますが、然し廣い正しい意味での政治は、日本に關する限り、日本精神の發揮以外の何ものでもないと信じてゐる。首相はじめ政府當局者はすべて日本精神に目醒めた人々であり、そしてその精神を如何に政治の上に發揮するかの方法を心得て居る者でなければならぬ。ですから、政治が假にうまく行かぬとすれば、それは先づ何よりも第一に、この精神の點で政府に缺けるところがあるからだと思は断言して憚らない。現内閣だけを問題とするのではない。斯なくとも、日本が謂ゆる非常時に入つて以來の歴代内閣を冷靜に觀察するならば、政府が國民に精神總動員を呼びかける前に、政府自體が多分に精

神を入替へねばならぬところがある。私をして言はしむれば、今の政府の精神はちよつと和洋折中バラツク建て安普請の二階家のやうなもので、がつちりした日本精神一本建てではない。だから非常時といふ嵐の中では、一年か半歳でかはるがはる内閣がべたべた潰れてしまふ譯なんだ。之は實に外國に對しても恥かしい話だと思ふ。連戦連敗のあの蔣介石が依然周圍から下野を迫られずに政府を保つてゐるのに比べて、諸君はどんな氣がしますか？

私は、今、日本は全面的建直しを必要とする場合だと考へてゐます。政府がだめなだけではない、國民もだらしがない。第一經濟がなつちよらん。教育もそうである。思想の混乱ときたらお話しにならん。凡ては出直す必要がある——この出直しを私たちは昭和維新と云つてゐるのです。

「問」 その昭和維新ですね。よく聞く言葉で、私等はただ何となくそれが善いことのやうに思ふのですが、然しまた或人はロシアの革命のやうな危険なものだと云つて

反對しますね。實際のところはどうなのですか？

「答」 もう時間が余りないので、詳しいお話が出来ないので残念ですが、簡単に説明すれば今も申した通り、日本の全面的改革であるから、改革されては困る人——現状維持派と云はれる人——の立場からは危険でしょうよ。日本の國情が現在のまゝである方が自分に利益だと考へる人は勿論昭和維新に反對します。要は日本の現状を以て満足するや否やが分れ目ですが、諸君はたいごうなんです、満足なんですか？これは諸君自身の胸にあることだ。そこで一寸御注意までに申上げるが、こうした大きな國家的問題を判断する場合に、自分を中心として考へてはならぬといふことです。それでは前にお話した西洋流の個人主義で日本の國體觀念に反するから、終には非國民の群に墮落してしまいます。ですから、どうしてもこう云ふ問題は皇運扶翼の立場即ち日本精神を基礎として、謂ゆる大乗的に國家的立場から考へなければ、正しい判断に達することは出来ません。

それで来るべき日本の昭和維新とロシアのボルシエヰキ革命との比較です。私は革命後のロシアに五年ほど居つて多少研究しましたから、相當確信を以てお話出来ると思ひますが、私はこの兩者の間には尠なくとも一つの根本的相異があると観てゐます。それを私は「呪はれたロシア」といふ著書の中で家屋に譬へて説明しておきました。ロシア革命は國家そのものを取壊した、替言すれば國體を變革した。帝制國家を民主主義の共和制國家に全く建て替へたのである。日本の維新は全々そんな必要はない——必要がないといふよりは、元々日本はそんな建て變への出来る國家でないといふ方が正しい。西洋國家はごうせ寄り合ひ世帯だから、多數決でどんな都合にも建直しが出来るが日本の國家は肇國の始めに既にその形體——國體——がきまつてしまつてゐるのであるから、今さら勝手な建直しは出来ない。であるから、昭和維新といふても、それは明治維新と同様に、國體そのものの變革では決してなく、せいせい家の内の造作の作り變へであり、雖魔な家具を屑屋に賣拂つて必要な家具を新調する程度の改革だ

と、私は云つて置いた。例へば昭和維新は、國內の經濟機構を改變すべきだと主張するが、これは正に家の造作の模様變へに過ぎぬ。現在の經濟機構即ち資本主經濟の仕組みは個人々々の金儲けには都合よく出來てゐるが、今の場合、皇運扶翼には寧ろ都合が悪い。だからこそ此の大變な時局下に怪しからぬ成金が出たり、暗取引が横行したりする。それではならぬから日本式の經濟機構、即ち皇運扶翼に最も都合のよい仕組に國內經濟、造作を變へろといふのが私たちの唱へる革新なのである。

「問」なる程よく解りました。それなら昭和維新は怖いどころか、そんな結構なことはない譯ですね。それに反對する人の氣が知れませぬね。私どもは大賛成です。是非及ばずながら仲間入りをさせて下さい。ところで、最後にも一つ疑問があるのですが、それは、よく物質と精神とどちらが先か、どちらが一層大切かといふ議論が出るのですが、これはどんなものなんでしょうか？

「答」私はこれは全く愚問だと思ひます。謂ゆる唯心論と唯物論の昔からの喧嘩で

すが、私はこの喧嘩は兩成敗としてしまいます。ちよつと又哲學めいた話になります。が、私たちは物心一如といふ立場を採ります。物質と精神とは楯の兩面の如きもので不可分だと観る。精神が先か物が先かといふ論争は、鶏が先か卵が先かといふ水掛論と同じです。ですから、制度ばかり變へても、人の心が革まらなければ駄目だといふ事は正しいが、さりとて制度を革めずして、ただ精神の改造のみを叫ぶことは間違つてゐる。心の入替へと制度の革新とが車の兩輪の如く進んで始めて眞の昭和維新となるのである。だから、日本精神を叫ぶ限りは、必ずそれに實行が伴はなければならぬ。ただ日本精神の説教をするだけでは、少しも日本精神ではない。支那の學者の王陽明が云つてゐますねー 知つて行はざるは知らざるなりと。

さういふ次第で私は、日本精神の高揚には必ずそれに伴ふ日本國民の物質的向上がなければならぬと信じてゐるのです。精神教育は外國仕入れの安モノで間に合せて置いて、ただ一途に富の生産即ち物質的向上ばかりに没頭してゐた從來の唯物主義に傾

いた日本は間違つてゐたことは明白だが、さりごとて今さら羔に懲りて膽を吹くやうに、一般國民大衆の生活問題を放つて置いて、それで修養だ、座禪だ、精神講話だと騒いだからとて、決して日本精神は振興されて行かぬと私は斷言して憚らない！

私は日本精神は、ちようご人間が赤子から大人に育つて行く過程と同様に、肇國の始めから日本民族の成長發展の歴史を通じてそこにそれぞれの時代に應じて外に顯現されるものだと思つてゐます。子供の時は子供らしい心の働きのあり、青年になれば青年としての精神の發揮があり、大人は大人らしい心で動く。三ツ子の魂百までで、歴史を一貫して日本精神の本質に變りはないが、時代に應じてその動きに違いがなければならぬものと思ふ。明治時代は明治時代、昭和時代は昭和時代で、おのづから別なところがなければならぬ。明治時代には國民各々が自由競争で我れがちに偉い人になつたり、大金持ちになつたりするのが、結局において皇運扶翼に役立つたからとて、變つた昭和の御代において、必ずしもその方針が日本精神發揮の正しい道とは云へぬ。

開闢以來の大國難時であり大飛躍時である此の昭和の現在においては、めい／＼國民が自由勝手な心の動きを有たないで、國家の大方針に向つて皆が歩調を合せ、精神を統一して、革むべき点はごし／＼改めて國民的團結を固くし、眞劍勝負をしてゐる時の宮本武藏のやうに、國家全體に一分の隙もないやうにするのが、ほんとうに日本精神の活用であると思ひます。

終

407
72

マツ何よりも
 国内浄化だ！
 国民道義化だ！
 我等の力で我等の力で
 住よい日本の建設だ

日本力
チカラ

昭和十五年六月十五日印刷
 昭和十五年六月十八日發行

日本精神問答
 (定價 貳拾錢)

版權
 所有

著者 横濱市戸塚區矢部町七五六
 近藤榮藏

發行者 東京市神田區東神田二
 吉田義憲

印刷所 東京市淺草區向柳原町一ノ一
 大和屋印刷所

發行所

東京市神田區東神田二番地
 日本力會出版部

振替口座東京一三三六一九番
 電話 區部 二五三五番

終

日本之美
日本之美
日本之美
日本之美
日本之美
日本之美
日本之美

日本之美